

身近な形や色と自分らしく関わる 子どもたちを応援します



北澤俊之
東洋大学 教授

学習を生活・社会にひらく視点

内容ベースから資質・能力ベースにシフト
チェンジしたこのたびの新学習指導要領。図
画工作科では、教科目標として「生活や社会
の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」
の育成が掲げられました。「改訂の趣旨」に
も述べられているように、その背景には造形
美術のはたらきに対する実感的な理解や造形
美術を通して生活や社会と豊かに関わる態度
の育成が十分でなかった、という反省があり
ました。その意味で私たち指導者は、造形美
術の学習を子どもたちの普段の生活の中に自
然な形でつなぎ、ひらくことを、これまで以
上に意識することが求められています。

開隆堂の導入ページでは、「自分」から「家
庭」、さらには「学校や社会」へと視点を広
げながら、造形美術の価値や可能性を子ども
たちに無理なく気づかせます。身近な遊びや
生活のなかにも表現につながる様々な形や
色、イメージが隠れていること。表した作品
や製作過程での学びを普段の生活に活かすよ
さや楽しさ。造形美術を図工室や教室に閉じ
ることなく、個々の学びを生活や社会にひら
く視点を提案しています。

自分らしい受けとめ方、表し方を大切に

教科目標の中に示された「造形的な見方・
考え方」という言葉。これはものごとをとら
える際の視点や考え方を図画工作科の立場か
ら示した重要なキーワードです。その内容

は、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、
形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイ
メージをもちながら意味や価値をつくりだす
こと」とあります。ここで注意したいのは、
「感性や想像力を働かせ」「自分のイメージを
もちながら」とあるように、造形活動はあく
まで子どもたち一人ひとりの諸感覚やイメ
ージを起点とすべきことが強調されている点で
す。こうしたことをふまえ、改めて子どもた
ちの日常を見ると、たとえば穴のあいた落ち
葉を顔に見立てて遊んだり、花や葉の色に着
目して色水をつくったりするなど、普段の生
活の中にもたくさんおさえるべき姿があるこ
とに気づきます。

開隆堂の導入ページでは、そんな子どもた
ちの好奇心や柔らかな視点を応援します。形
や色に注意して身近な生活を見回せば、そこ
に新しいイメージが立ち上がることの不思議
さ。材料と様々に関わりながらイメージを広
げ、つくりたいものを具体化することの喜び。
そうした子どもたちの発見や創造は、一見さ
さやかなものに映るかもしれません。しかし、
実はそれは自分らしい意味や価値を創造する
姿そのものであり、とても大切なこと。その
ことを、改めて子どもたちと共に確認したい
と思うのです。「さあ、あなたらしい受けと
め方、表し方で安心してはじめよう！」私た
ちはそんなメッセージで子どもたちを図画工
作の授業に送り出したいと考えます。

